

風土記の丘の花だより¹³³

今、そしてこれから見られる植物(2022年5月7日)

連休中、ずっとお休みをいただいていたので、一週間ぶりに出勤すると、草花や山の緑の様子がコロっと変わっていて驚きました。いちばん驚いたのはこのエゴノキで



した。ツボミの様子から、まだまだ咲かないと思っていたのに、もう落花も見られます。初夏の暖かさのせいでしょうか。ここだけの話、実はこのエゴノキ、5月のニュース和歌山に載せようと思っていましたが、急遽、植物を変えざるをえなくなりました。それはいいとして、今がいちばんきれいですので、ぜひ万葉植物園でご覧ください。



おなじく万葉植物園でガマズミも咲いています。この花は真っ白でとてもよく目立ちます。近くに行くと独特の香りがします。それにつられて多くの虫が集まります。特に多いのが緑色のハナムグリの仲間です。何種類かいますので、違いを観察するのも楽しいかも知れません。ガマズミはこれまでスイカズラ科でしたが、今は、レンプクソウ科と書いている図鑑が多いですね。ややこしい！



背の高い木にうす紫色の花が咲いていたならそれキリの花でしょう。上ばかり見て歩くのは危ないですから、落ちている花を見つければすぐに分かります。数cmもある筒状の花なのでよく目立ちます。フジの花が終わった頃から咲き、房がフジとは反対に上向きなので、逆さ藤と呼ばれたりもします。



昔「この花、何か知ってる？ しらん」と、しょうもないことを言っていたような記憶があります。シランとはご承知のとおり紫色の蘭で「紫蘭・しらん」です。ランというと「貴重な」とか「高価な」というイメージがありますが、これはごく庶民的なランです。中には白い花もあってシロバナシランという、白なのか紫なのかわからない、ややこしい名前がついています。 松下